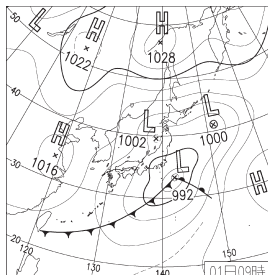


日々の天気図

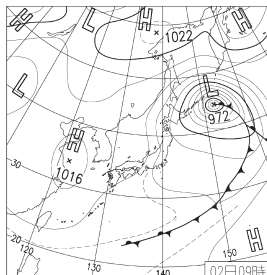
— No. 136

2013年 5月

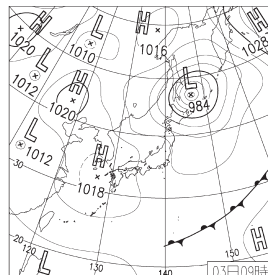
- 5月上旬は、強い寒気の影響を受けて全国的に気温がかなり低くなったが、下旬は西～北日本で気温がかなり高くなった。
- 西～東日本は晴れた日が多かったため、月降水量は平年よりかなり少なく、日照時間は気象官署の23地点で5月の多い方からの1位を更新、(気象庁予報部予報課)



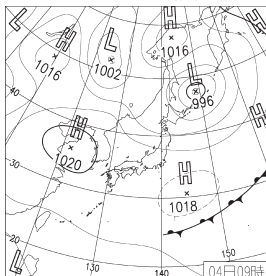
1日(水)北日本上空に寒気流入
西～東日本で晴れたが、午後にはわか雨も、本州日本海側～北日本で曇りや雨、南西諸島で雨や曇り、北日本を中心に寒気が流入し、札幌の上空約1500mでは3月中旬並の-9.7℃。



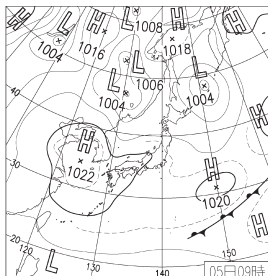
2日(木)北海道で積雪
寒気の影響で北日本は雨や雪、西日本を中心に37地点で5月の日最低気温の記録を更新。5月として札幌は21年ぶりの降雪、紋別は7年ぶりの積雪。盛岡市でサクラ満開。



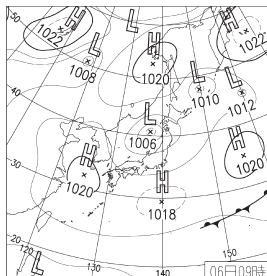
3日(金)全国的に寒気持続
オホーツク海の発達した低気圧は衰弱傾向だが、日本付近の寒気は持続。北陸～東北日本海側で雨、北海道はオホーツク海側中心に雪。札幌の最高気温は平年より約10℃低い5.8℃。



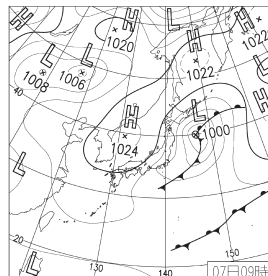
4日(土)引き続き低温
北日本は寒気の影響で、日本海側を中心に曇りや雨、西～東日本は晴れたが、大気の状態が不安定となり、雨が降った所も。最高・最低気温は全国的に平年より低め。



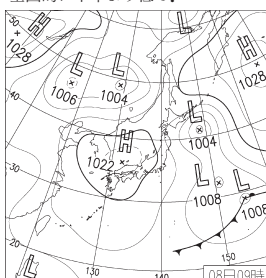
5日(日)西～東日本は晴れ
移動性高気圧に覆われ西～東日本は概ね晴れ。気圧の谷の影響で北日本は曇りや雨、高気圧の南縁となった沖縄・奄美は曇りや雨。稚内市でウグイス初鳴。



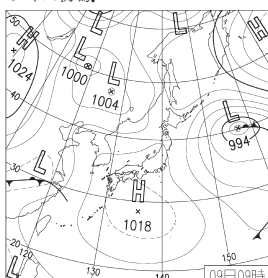
6日(月)真夏日と雪が同居
北日本と北陸は低気圧の通過により曇りや雨で北海道の一部は雪、中札内村上札内で最深積雪14cm。西日本～東北南部は各地で夏日、宮崎県美郷町神門は国内今季初の真夏日。



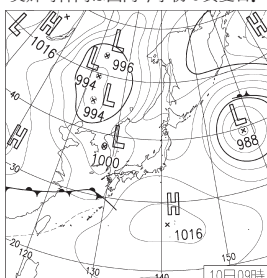
7日(火)再び全国的に寒気流入
西高東低の気圧配置となり広範囲で強い風、東北を除き全国的に晴れたが寒気の影響により最高気温は西日本の一部を除いて3～4日並と低く、青森県と北海道の6地点で真冬日。



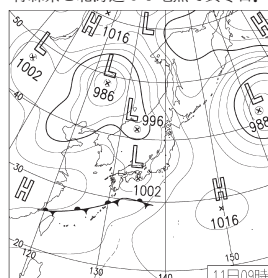
8日(水)最低気温の記録更新
北日本の一部を除きよく晴れ、寒気と放射冷却により、東日本と東北地方を中心とする38地点で、5月の日最低気温1位を更新。函館市で平年より8日遅くサクラ開花。



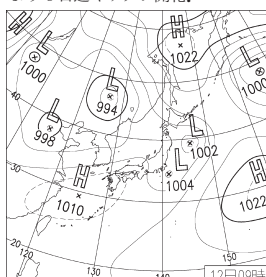
9日(木)全国的に高温に
日本の南の高気圧に覆われ広範囲で晴れ、全国的に気温上昇。最高気温は西～東日本で6～7月並と高く、27地点(全国の3%)で真夏日。岐阜県高山市六匠で冬日と夏日を同日に記録。



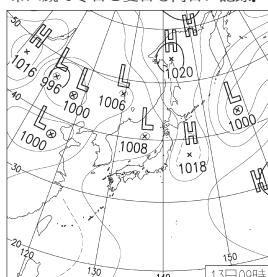
10日(金)西から天気下り坂
気圧の谷が接近し、沖縄・奄美から西～東日本まで次第に雨。北日本はオホーツク海沿岸を除いて晴れ。沖縄県石垣市川平で58mm/1h、帯広市でエゾヤマザクラ開花。



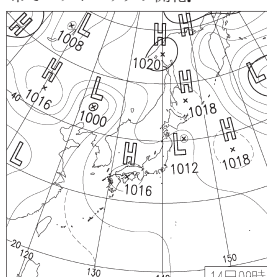
11日(土)全国的に雨
気圧の谷の通過と南からの暖かく湿った空気の流入により全国的に雨。沖縄・奄美は前線が停滞、鹿児島県喜界島で日降水量187mm。天気は西から回復、九州では午後晴れ間も。



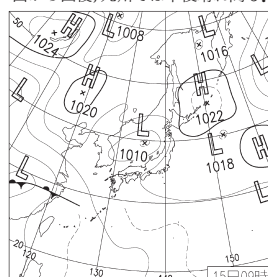
12日(日)天気回復 気温上昇
高気圧に覆われて天気回復。西日本は放射冷却が加わり朝の最低気温は平年並以下となったが、日中は気温が上昇し関東以西の最高気温は7月上旬並の所も、函館市でサクラ満開。



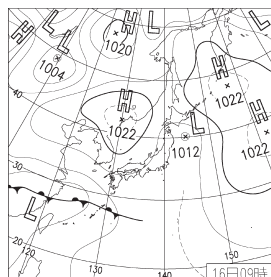
13日(月)札幌でサクラ開花
南からの暖かく湿った空気の流入により沖縄県竹富町波照間で45mm/1hの激しい雨。西～東日本では晴れて、58地点(全国の6%)で真夏日。札幌市でサクラ開花。



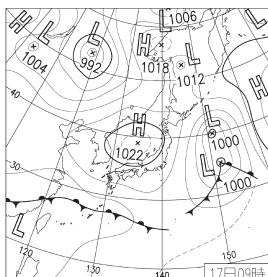
14日(火)沖縄 梅雨入り発表
沖縄は湿った気流の影響で曇りや雨。平年より5日遅く梅雨入り発表。西日本～東北は高気圧圏内で晴れて、101地点(全国の11%)で真夏日。低気圧の影響で北海道は曇りや雨。



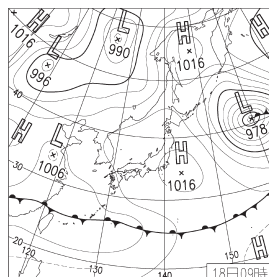
15日(水)奄美 梅雨入り発表
日本海に低気圧があり北日本は雨や曇り。北海道の最高気温は4月並。九州～北陸・関東は晴れ。夜には東シナ海から前線がのびて沖縄・奄美は曇りや雨。山形でひょう。



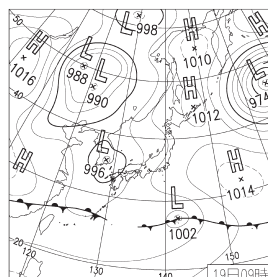
16日(木)青森・岩手県で震度4
東～北日本の上空に寒気が流入し、大気の状態が不安定となり、関東では雷雨。沖縄・奄美では前線の影響で激しい雨。鹿児島県奄美市名瀬で日降水量175.5mm。



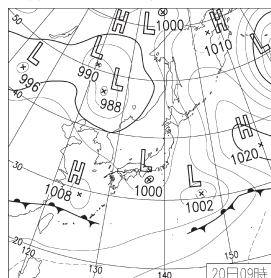
17日(金)沖縄 非常に激しい雨
雨の沖縄～九州南部を除き高気圧に覆われて晴れ。低い海水温の影響を受けて北陸や東北の沿岸部は最高気温が4月並。沖縄県宮古島市新城で53mm/1hの非常に激しい雨。



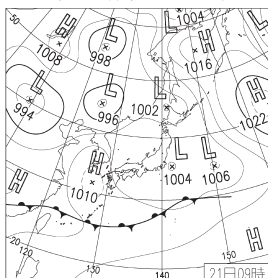
18日(土)宮城県で震度5強
南西諸島と北海道北部は雨や曇り、他は概ね晴れ。最高気温は北海道北部を除き平年より高い所が多い。札幌市サクラ満開、旭川市エゾヤマザクラ開花、宮城県石巻市で震度5強。



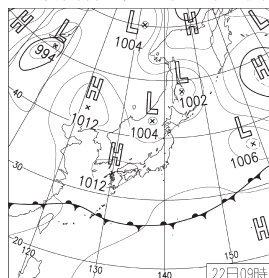
19日(日)西から雨域拡がる
沖縄・奄美は前線の影響で雨。西日本は、朝鮮半島から日本海へ進んだ低気圧の影響で曇りや雨。東～北日本では高気圧に覆われて晴れたが、午後は低気圧の影響で曇りや雨。



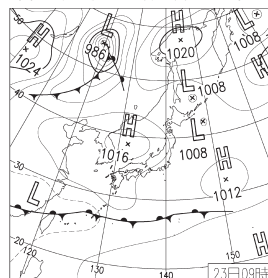
20日(月)米国で巨大竜巻
気圧の谷通過で東～北日本は曇りや雨。東シナ海に高気圧が進み西日本は曇り後晴れ。前線に近い沖縄・奄美は曇りや雨。旭川市で統計開始以来最も遅いエゾヤマザクラ満開。



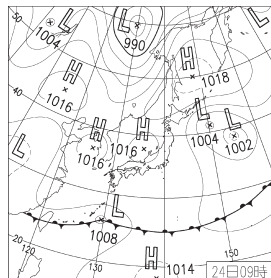
21日(火)各地で雷雨
南西諸島は梅雨前線により雷雨。西日本～東北は南から高気圧に覆われ概ね晴れて気温が上昇。午後は関東北部で雷雨。北海道は低気圧の通過で雷雨後晴れ。室蘭市でサクラ満開。



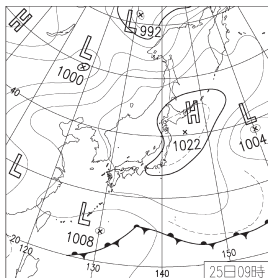
22日(水)広範囲で気温上昇
沖縄は梅雨前線による曇り。北海道は気圧の谷の影響で曇りや雨。九州～東北は晴れて気温が上昇し北海道を除く570地点(全国の61%)で夏日、西日本を中心に105地点で真夏日。



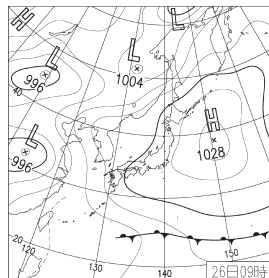
23日(木)沖縄で大雨
北日本は気圧の谷の通過で曇りや雨。梅雨前線が停滞した沖縄は大雨。那覇市樋川で57mm/1hの非常に激しい雨を観測。日降水量は204mm。釧路市でエゾヤマザクラ開花。



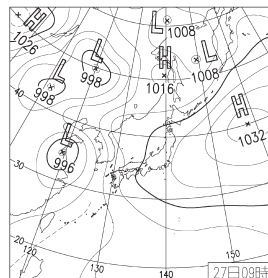
24日(金)今年国内初の猛暑日
低気圧が影響した北日本の一部を除き、西～北日本は高気圧に覆われて晴れ。大分県日田で最高気温35.4℃。沖縄は梅雨前線の影響で曇りや雨。オホーツク海でMw8.3の地震。



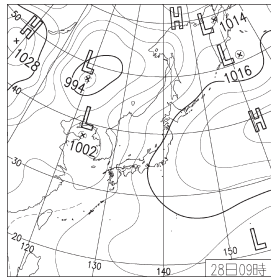
25日(土)網走でサクラ開花
上空の寒気の影響で北日本は曇りや雨。西～東日本は晴れや曇り。エゾヤマザクラが釧路市で満開。網走市では最も遅い記録を更新する開花。平年より14日遅れ。



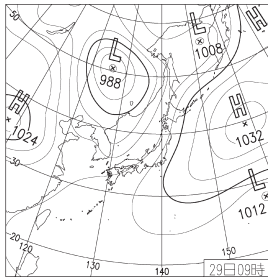
26日(日)稚内でサクラ開花
沖縄は湿った気流により雨。西日本～北日本は高気圧圏内で晴れまたは曇り。稚内市で平年より12日遅くエゾヤマザクラが開花。これはサクラ観測官署中では、今季最後の開花。



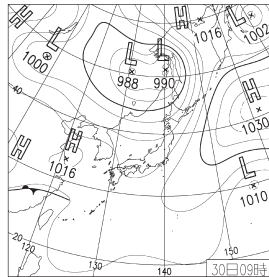
27日(月)九州等で梅雨入り発表
西日本は曇りや雨。九州南部・北部、四国、中国で梅雨入り発表。高気圧からの暖かい風が吹いた北陸～東北の日本海側や北海道東部の内陸で真夏日。網走市でエゾヤマザクラ満開。



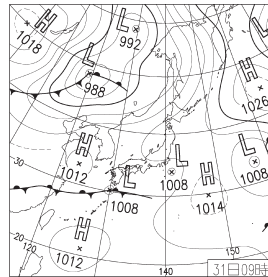
28日(火)近畿、東海梅雨入り発表
西～東日本は曇りや雨。近畿と東海で梅雨入りを発表。晴れた沖縄と北海道で真夏日多数。最高気温の全国1位は北海道遠軽町遠軽の32.7℃。稚内市でエゾヤマザクラ満開。



29日(水)関東甲信 梅雨入り発表
南から暖かく湿った気流が入り西日本～北日本で曇りや雨。関東甲信で梅雨入り発表。沖縄・奄美は晴れや曇り。気温は全国的に高め。高知県香美市繁藤で日降水量215mm。



30日(木)西～北日本曇りや雨
気圧の谷の影響で西日本から北日本まで曇りや雨となったが日本海側は夜には回復。沖縄・奄美は晴れや曇り。気温は全国的に高く、特に北日本では最低気温が7月下旬並の所も。

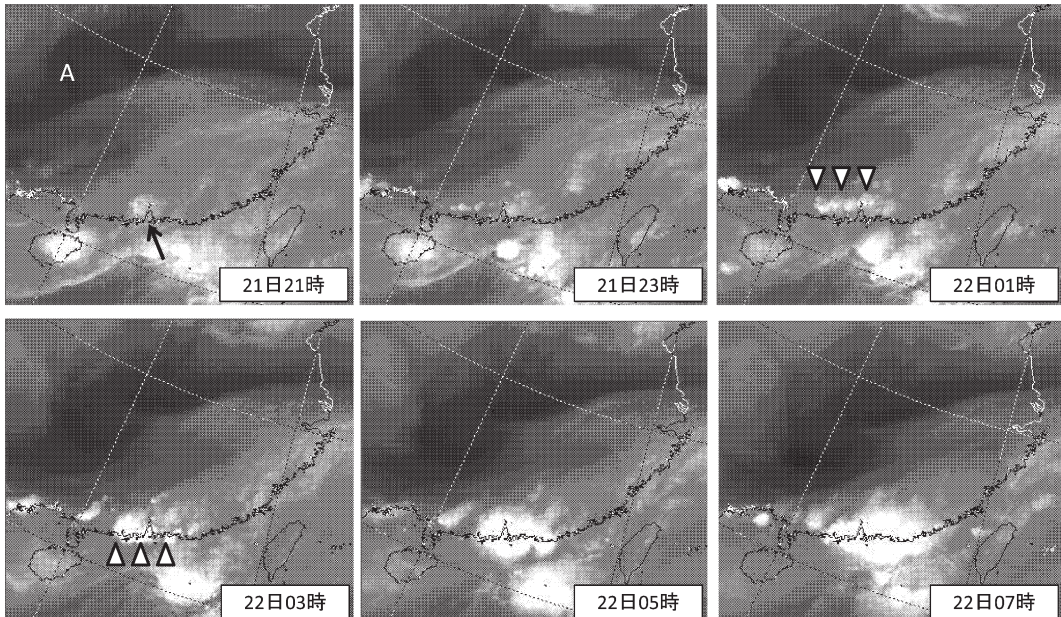


31日(金)梅雨の晴れ間
西～北日本で朝から晴れたが、西日本では昼頃から曇り。九州南部～沖縄では曇りや雨。北海道は最高・最低気温共に平年より高く、雄武で最高気温が平年より13.7℃高い28.2℃。



今月のひまわり画像—2013年5月

香港証券取引所の取引を停止させた大雨

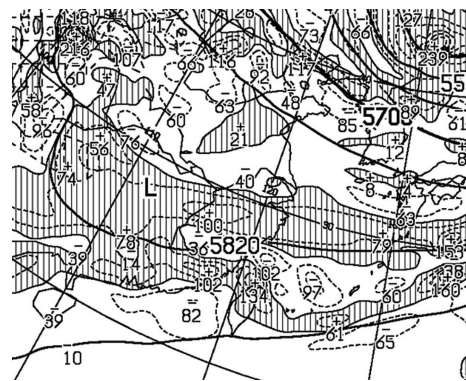


第1図 2013年5月21日21時～22日07時（日本時間）の華南付近の水蒸気画像，左上図の矢印の先端が香港，記号については本文参照。

香港では，2013年5月22日03時45分（日本時間）までの1時間に，気象レーダーによる推定雨量も含めて150 mmに達する大雨となった。今回は，このときの状況を衛星画像で振り返ってみたい。

第1図は，21日21時～22日07時の2時間毎の華南付近の水蒸気画像である。同図中のA付近に低気圧性の循環を持つ上層渦（第2図の500 hPa面の正渦度極大域に対応）がみられ，同期間，約15 kt（28 km/h）の速度で南東進していた。この上層渦の南東象限の香港（第1図左上の矢印の先端）付近では，22日00時頃から南西～北東走向の積乱雲からなる雲列（Cbライン）が形成され始めた（第1図右上の▽）。同日03時になると，地上における取束線の位置が南東に移動したことなどにより，香港の北西にあったCbラインは不明瞭になり，代わって，香港の西に新たなCbラインが形成され，東北東進した（第1図左下の△）。これらのCbラインにより，香港では同日00時～09時の間大雨となり，香港証券取引所が22日午前の取引を停止する異例の事態となった。

（気象庁予報部予報課 野中信英）



第2図 21日21時の華南付近の500 hPa面における等高線（60 m毎）と渦度（ 50×10^{-6} /秒毎）。

参考文献

香港天文台ホームページ，<http://www.hko.gov.hk/contentc.htm>（2013.06.24閲覧）。